



今号のトピックス	page
事務局からのご案内	1
特集「近頃の山の木で家をつくった」	2・3
読み切りトピックス「知っていますか」	4
読み物のページ「森の文化 木の文化」	5・7
活動報告	6
事務局からのお知らせ	8

**事務局からのご案内**

「近頃の山の木で家をつくる  
スクール名古屋2005」のお知らせ

今年も、近頃の山の木で家をつくるスクールが開催されます。昨年に引き続いて、森林と建築を様々な観点から学ぶため、それぞれの分野の専門家を招き充実した講座を予定しています。

今年も、現代の森林を取り巻く課題や、分野への理解、また木を活かした住まいづくりなどをテーマとした「一般公開講座」と「基礎講座」そして、専門家を対象に、木構造を学ぶ「特別講座」を用意しています。（\*特別講座「ヤマベの木構造1・2・3」は、定員に達しましたので募集を締め切りました。）

各講座には、それぞれ定員の制限や、受講料が掛かります。詳細は、緑の列島ネットワークHPでご確認ください。

**近山スクール 一般公開講座**

これからの森林のあり方や、暮らし方についての講座です。どなたが聞いても分かりやすい内容です。

開催日	内容
6/4 (土)	「近頃の山の木」で家をつくるために /中越地震で木構造は・・・ 講師：鈴木有（元秋田県立大学教授）

**近山スクール基本講座**

木や自然素材で家をつくりたいと考える方や、建築を専門とする方まで、幅広い方に興味深い内容の講座です。

開催日	内容
7/23 (土)	唯法寺庫裏棟上後の 現場見学と職人の話 講師：寺河千佳子（左官・瓦・畳職人）

開催日	内容
9/17 (土)	伝統工法住宅の設計メソッド /藤岡邸の見学 講師：大江忍・藤岡伸子
10/8 (土)	住空間デザインと「近頃の山の木」 講師：三澤文子（森林文化アカデミー教授）
11/19 (土)	ウッドマイルズという概念/ 地場産材供給の最新事情 講師：藤原敬（HOLZ三河担当者）
12月 (調整中)	捻駕籠の席（茶室） 講師：調整中

<申し込み方法>

緑の列島ネットワークのホームページにて、申し込み用紙をダウンロードできます。  
([http://www.greenarch.or.jp/school\\_chikayama\\_nagoya\\_annai\\_2005.html](http://www.greenarch.or.jp/school_chikayama_nagoya_annai_2005.html))

または、下記の連絡先までお問い合わせください。

近山スクール名古屋事務局 藤岡  
〒466-8555名古屋市中区昭和区御器所町  
名古屋工業大学 藤岡研究室  
E-mail:c-yama@archi.ace.nitech.ac.jp  
FAX:052-735-5182

## 近くの山の木で家をつくった！！

ネットワークの会員の中には、「近くの山の木で家を建てたいけれど、その方法が分からない。」とおっしゃる方も多くいることと思います。今回は、地場産材で家を建てたいという想いを、見事形にした石鍋さん一家をご紹介します。

(設計・施工/愛川森林ハウス)



石鍋幸子さんと  
ご長女の明子さん

### 【家づくり・第1幕】

神奈川県足柄上郡の緑に囲まれた地区に、こだわりと想いのいっぱい詰まった板倉作りの家があります。緑の列島ネットワークの賛助会員、石鍋さんご一家の新居です。取材に伺った日は、5月というのにセーターが欲しいほどの気候。それにも関わらず、石鍋さんのお宅に上がると木の持つ暖かさが、とても足に心地よく感じられました。やわらかい杉の香りに思わず深呼吸をしたほどです。この家の完成するまでのお話を、奥様の石鍋幸子さんに伺いました。

### 【木へのこだわり】

石鍋さん一家の木へのこだわりは奥様の幸子さんが、リーダーとなっています。山に囲まれた北陸・福井で育った幸子さん。幸子さんが小さかった頃、お父様は木を植えながら「この木は、幸子の子供の代で、初めて使うことができるんだよ。」とよくお話しされたそうです。ご実家には、常に製材された木材が、家の修理のために蓄えられていました。そうして、木や森を守ること、そして家を建てることはとても時間と手間が掛かることなのだと、自然に教えられていったと話します。

ご結婚後、神奈川の地で新居をたてる際にも、その思い出から『絶対に木の家を』と望まれました。また、3人のお子さんが喘息を持っていたという家族の健康問題も、幸子さんが、木の家にこだわる大きな理由だと話します。

家を建てる時、木の家を望んだ幸子さんは福井のお父様に電話をし、実家にある木材を譲ってほしいかと頼みました。しかしながら、お父様からの返事は、NO! 『北陸の木材は、神奈川には合わない。神奈川で家をつくるなら、神奈川の木を使え。』と、頑として譲らなかったそうです。

石鍋さん一家の、“近くの山の木”を使った家作りの始まりは、20年以上にもさかのぼります。その時、お父様の言葉を聞いた幸子さんは、地元の木を使って、家を建ててくれる工務店を探しました。地域の工務店にあたったところ、「最近では、僕らでも神奈川県産の木なんか手に入らないんだよ」と何軒か断られたそうです。豊富にある神奈川の山の木が手に入らないわけが無いと、思った幸子さんは、森林組合に直接問い合わせ、地場産材でつくる工務店を紹介されました。それが、愛川森林ハウスの波多野さんとの出会いです。こうして波多野さんと、石鍋さん一家の家づくりの歴史が始まります。石鍋さん一家にとっての初めての家が完成したのは、昭和59年のことでした。

### 【売却を通して考えた家のありかた】

気に入っていた、最初の“近くの山の木”を使った家でしたが、3人のお子さんの成長や周辺環境の変化また『もっとシンプルに、健康に過ごしたい』というご自身の変化などから、その家を離れることを決意されました。とても気に入っていた家なので、当初は移築を希望されたのですが、物理的に難しいとわかりその家を売却します。

それから、5年間新たな新天地を求めて、一家6人仮住まいをしながら、様々な住まいの形を考えました。このままマンションを買ってもいいと一時は考えたそうですが、やはり木と健康に対する想いは強く、2002年、再び“神奈川の木の家”を建てることを決意されました。

そして今回も、木とそれらを取り巻く問題に高い関心のある、愛川森林ハウスの波多野さんをお願いすることに決めました。気心も木心も知れた波多野さんに、石鍋さん一家は大きな信頼を寄せています。

新居建設に際して、幸子さんには、一つの強い思いがありました。それは、前の家の売却時にお子さんが言った『魔法のじゅうたんがあったらそのまま家をもっていきたい。』という言葉です。この言葉が、家作りの一つのテーマとなりました。元々、ゴミ問題にも大きな興味があり、大量のゴミを出す現代住宅のあり方に疑問を持っていた幸子さんは、ごみにならず100年もつ家を建てようと考えました。

## 【家づくり・第2幕】

それが、新しい住まいの板倉作りの家です。板倉作りは、日本古来の伝統工法の一つで、柱に溝を彫り、そこに厚さ3センチの杉板を落とし込んで壁をつくる工法です。何らかの理由で引越しをするときにも、ほぼ全ての材を利用することができます。

使用されている木材の90%以上が神奈川県産の木材です。幸子さん自身も、原木貯蔵場である神奈川県森林組合連合会林業センター（秦野市）に出向き新居に使用されるための原木を見学しました。また木材乾燥は、遠赤外線で1ヶ月、その後は自然に乾燥させる方法を取りました。柱は檜、壁や床は杉、梁はアカマツ、土台はクリと、本当にうれしそうに、その木の種類を教えてくださいました。歩くと、足にぴったりすいついてくる、それでいて爽やかな感触の床は特にお気に入りです。普段は、はだして木の感覚を楽しんでいるそうです。90歳になるおじいさまは、5年という長い期間のアパート暮らしにも、文句一つ言わず見守ってくれ、今はこの板倉の家での生活を満喫されているそうです。

また、幸子さんは新居の建設に際して、波多野さんから緑の列島ネットワークの存在を知らされ、ネットワークへの入会にいたりしました。建設途中では、1000人広告の呼びかけ人の一人でもある波多野さんから、地元の木でつくる家の意味をたくさん学び、そして自分たちの家づくりが、自分たちの空気をつくり、水を浄化することにつながっていると確信したといえます。



## 【家づくりから住まいづくりへ】

新築の際に石鍋さんは、限られた予算の中で構造を重視し、設備（照明やキッチンなど）にはなるべくシンプルなものを選びました。石鍋さん一家の、飾らないライフスタイルは、このことに関係しているのかも知れません。



建築中の石鍋邸

また、本棚など簡単な家具は、ご家族で手作りされています。『腕が上がったら、難しいものにも挑戦したい。それから近い将来には、薪ストーブを入れたいな。』と、とても楽しそうに話してくださいました。家族で"家"を"住まい"に変えていこうとされている姿がとても印象的でした。

## 【近くの山の木で家をつくる醍醐味】

近くの山の木で家を建て、その魅力と意義を知った幸子さんは、『これから家をつくる方には、地場産材でつくることを是非考えて欲しい』と語ります。地場産材での家づくりは、空気や水をつくり、その恩恵は必ず自分たちのためにも、自然のためにもなるのだからと言います。

現代の家づくりでは、坪単価に重点が置かれすぎてしまっていることに、幸子さんは警告を鳴らします。『同じ価格の家を100年もたせるか、または20年で立て替えてしまうのかで、年単位の価格は全く違うものになる。』坪単価の比較で、その住宅の価値を計ろうとせず、長くもつ家をつくることは、結局一番賢い家作りだといえます。また、自分たちが建てた家が、山を守り、河をよみがえらせ、海を育むという自然を守る一環となる感動を是非、味わって欲しいと言います。

幸子さんご夫婦が試行錯誤しながら、家作りを通して、自然や地域を考える姿が、まさに子供たちへの教育となったと幸子さんは話します。現在では、長男は林業を、長女は農業を勉強されています。次男は、現在中学生。どのような将来を選ぶのか、今から楽しみと語ります。

『日本の山を守るためにも、そして気持ちの良い住まいのためにも、近くの山の木で家をつくる運動はとても重要な活動』だと、幸子さんは話します。この活動が大きな動きとなって消費者、家づくりにかかわる人の意識を変えてゆき、やがては国の政策にも影響を及ぼすような活動となるよう、緑の列島ネットワーク活動に期待しますと、お話をいただきました。

無秩序な森林の伐採や、CO2増加の問題などの地球規模の環境問題は、私たちに持続可能な森林経営の重要性を教えてくださいました。またそういった問題は、私たち消費者の、製品に対する安全性・健全性といった新たなニーズをもたらし、これを評価するものとして、様々なラベルが世に出ています。

しかしながら、ラベルに対する一般の消費者の認識は『環境ラベルが貼ってあるから、他のものよりは地球に優しいのでは？』程度ではないでしょうか。

そのラベルがどのように、承認されているのか、認証を行っている団体はどのような組織であるのかなど、その背景を知ることがラベル自身の健全性を知ることになります。

今回は、特に知られている森林認証制度を例に挙げて、その意義について考えてみたいと思います。

#### 様々な認証とその背景

##### FSC (Forest Stewardship Council)

森林認証といって、真っ先に挙げられるのがFSCです。FSCの設立には、木材の生産や流通に関わる企業だけではなく、環境NGOや先住民の団体が論議を重ね、1993年に、その本拠地をドイツのボンに置き設立されました。認証は、「森林管理の認証」と「加工・流通過程の管理認証」の2種類に分かれます。認証は、FSCによって認可を受けた第3団体によって行われます。

日本では、2000年に三重県の速水林業が森林認証を受けたのを皮切りに、今では19団体、20万haが「森林管理の認証」を、240件ほどが「加工・流通過程の管理認証」を受けています。

##### PEFC (Pan European Forest Certification Scheme)

PEFCは、FSCが小規模の森林所有者の希望を取り入れていないとして、1999年に設立されました。名前の通り、主にヨーロッパで取り入れられている認証制度です。モンリオールプロセス（欧州以外の温帯林を対象とした、持続可能な森林経営の基準と指標）に参画している米国、豪州、ブラジルなどが加わり相互承認の輪が世界中に広がりつつあります。

しかしながら一方では、フィンランド等環境保護団体はPEFCはFSCに比べてその基準が不十分であり、マーケティング用の販売促進手段として使っているにすぎないという認識を持っています。

##### SFI (Sustainable Forestry Initiative)

1995年にアメリカで設立されたSFIは、林産物や製紙産業の取引を扱う企業で組織される協会によって開始され、これらの企業の環境対策に疑問を抱く人々への対策として活用されています。

##### SGEC (緑の循環認証会議)

『緑の循環』認証会議（SGEC）は、既存の認証制度が、日本の森林合わないという声が多くあったことから、日本独自の認証としてが2003年設立されました。設立にあたっては、森林・林業・経済・産業、消費、自然環境などの様々な立場の団体が参画しました。認証は「認証森林」と「認証事業体」に分かれており、現在までに11の森林と5件の事業体が認証され、その面積は合計で2万8千haとなっています。

今回は、以上の4つを例に挙げましたが、これだけの例でも、FSCとSGEC以外は業界団体による認証であることが分かります。一般的には、業界団体による認証制度を否定する動きがありますが、問題の本質は私たちがグリーンコンシューマーとして、そのラベルが何を認証して、どのような背景を持っているのかを知り、正しい商品を選ぶことにあります。

#### 日本における地域の認証制度

森林認証の存在が知られるにしたがって、地域での取り組みも活発化してきています。現在では、20を超える都道府県が、何らかの形で県産材を認証しています。これらは、県産材のアピールが主な目的となっています。

そんな中で、東三河流域活性化センター・NPO法人穂の国森づくりの会が取り組んでいる『三河環境認証材制度』が始まっています。この制度は、既存の認証制度と同じく、適切に管理された森林、生産された木材に対しての認証はもちろんですが、流通に際してのウッドマイルズの考え方を取り入れることで、地場産材の可能性を見出し、持続可能な森林経営や家づくりを行おうとしています。

#### 私たちのすべきこと

森林認証は、今後も増え続けることが予想されます。このような状態において私たちは、マークのあるなしではなく、その背景を知る必要があります。これは、有機や無農薬栽培などのマークにも言えることです。また、認証を受けるには、ある程度の費用が掛かるため、そのような費用を拠出できない小規模な組織でも、健全で持続可能な森林経営・生産を行っている団体への理解が必要です。

## 森を育み、技術を継承する 『岐阜森林文化アカデミー』

岐阜県美濃市の山間に、今年創立5年を迎える「森林文化アカデミー」があります。校長は、緑の列島ネットワークの相談役でもある熊崎実氏。この学校では、森林を取り巻くあらゆる問題に焦点を当て、ユニークな教育を行っています。生徒の経歴も、高校卒業したばかりの人から、建築事務所で何年も働いた人、エンジニアや営業マンといった全くこれまで森林に関してこなかった人まで非常に様々です。

森林文化アカデミーでは、造林や森林作業などの森林に直接関る講座に加え、里山を活用や、地域での環境教育活動など、非常に幅広くそしてユニークな授業体系を誇っています。また、国産材を有効に建築に活用することを目的とした木造建築スタジオの存在は、森林文化アカデミーを既存の林学科と、明らかに一線を画するものとして際立たせています。

木造建築スタジオで、特にユニークなのは自力建設プロジェクトです。このプロジェクトでは、生徒によるコンペが行われ、一位を獲得した作品が実際に建設されます。コンセプトを伝えるうえでのプレゼンテーション技術に始まり、工事の工程管理・職人さんたちとの調整・材料の発注、そして実際の施工まで、その全てを生徒が自ら行います。この自力建設プロジェクトには、通常1年ほどの時間が掛かりますが、そこで学ぶことは実社会で活用できるまさに“生きた”学習であるそうです。

2002年には、「みさきのちゃや」という作品が竣工されました。かまどなどの設備も整っており、地域の小学生のための環境教育の場として使用されています。



緑に囲まれた岐阜森林アカデミーの校舎は、  
北川原温氏の設計（撮影：江嶋）

そうしたプロジェクトで備わった力を活かして、卒業生は様々な活動をしています。建築事務所を開く人も少なくありません。

また、地域のファシリテーター（参加者の心の動きや状況を見ながら、実際にプログラムを進行して行く人）といった新しい手法で、山村問題に関わる仕事などに関する卒業生もいます。

最先端の技術を学びながらも、日本古来から伝わる木と森の文化を考える。この学校の卒業生たちが、日本の森林を健全な姿へと戻す担い手となることを期待します。



みさきのちゃや（撮影：江嶋）

<問合せ先>

〒 501-3714

岐阜県美濃市曾代88[-1]

岐阜県立森林文化アカデミー 事務局 教務課

tel 0575-35-2525 fax 0575-35-2529

info@forest.ac.jp

http://www.forest.ac.jp/

## 中部ブロック

### 『あいちの木で家を造る会』からの報告

あいちの木で家を造る会のセミナー&見学会が、3月5日に、参加者35名で開催されました。



『あいちの木で家を造る会』見学の様子

最初に見学したのは、自然素材生活館和合倶楽部（東郷町）で、ここの建物3棟の見学をしました。自然素材を使った生活提案の主旨説明を朝日のぼる氏より聞き、4班に分かれて、展示棟2棟、本棟1棟を見学し、待ち時間には、喫茶で無農薬のコーヒーを飲みながら、参加者同士での情報交換をしました。

その後、名東区までマイクロバスで移動して建築中の「自然素材賃貸住宅 大針ビレッジ」を見学しました。完成間際ということもあり、1棟の内部見学とあとは外部からの見学となりました。三河材をふんだんに使った、土壁づくりの賃貸住宅5棟9戸が、ゆるやかな丘の上にありました。敷地内は禁煙というような、住民の心得なども提案された新しい試みの長寿命賃貸住宅とのことでした。



## 新潟中越地震におけるボランティア活動の報告 2

前号のニューズレターでもお知らせいたしましたとおり新潟中越地震の救援ボランティアとして、“職人がつくる木の家ネットワーク”と合同チームをつくり、鈴木有氏(当法人相談役)を始めとし2回の救援ボランティアに参加してきました。

下記のアドレスにて報告がされてますのでご覧ください。

調査メンバーである吉田晃氏のブログ

<http://www.doblog.com/weblog/myblog/30645>

## 木材品質基準策定委員会からのお願い

ご承知のように、NPO緑の列島ネットワークでは、地域の木材を活用した各地の家づくりを支援するために、「地域発信型の新たな木材品質基準策定」の取組を続けています。

(詳細は、緑の列島ホームページの「木材品質基準策定委員会の活動報告」をご覧ください。)

この活動の一環として、会員の皆さんにいくつかのお願いがあります。下記の事項に関して、協力して下さる地域の組織や個人の方がありましたら、事務局にご一報下さい。実現に向けてご相談させていただきたく、ご連絡をお待ちしています。

(1) 地方聞き取り調査対象の受け入れ：各地の特色ある大工棟梁と建築士による家づくりの木造構法を集約し体系化して、「共通基準」に反映させるために、その地方聞き取り調査を続けています。そのための対象の推薦と調査の受け入れをお願いします。

(2) 調査に併せたイベントの企画と開催：この調査には、原則として長谷川敬名誉会長と山辺豊彦理事と座長の鈴木有が必ず同行し、場合によっては他の委員も参加します。それらの人々を核にしたイベントを調査地で企画して下さるのなら、協力させていただきます。

(3) 委員又はオブザーバーとしての参画：策定委員会再開に当たって、改めて新委員やオブザーバーとしての参加を募ります。基準作りへの新たな人材の参画を求めています。

木質基準のページ

<http://www.green-arch.or.jp/basis.html>

木材品質基準策定委員会の活動報告

[http://www.green-arch.or.jp/basis\\_katudou05.html](http://www.green-arch.or.jp/basis_katudou05.html)

## 愛知県：会員の菅野知之さんが TVに取り上げられました

株式会社ログウェル日本（木材流通ベンチャー企業）の代表取締役、また緑の列島ネットワークの会員でもある、菅野知之さんが、4月22日NHKの「ビジネス未来人」で取り上げられました。

菅野さんは、林野庁に勤めた後、自動車会社の植林事業に関り、その後木材流通ベンチャーを立ち上げたという経歴の持ち主です。国産材流通のため、独自の流通システムを構築しています。

紹介されたNHKのHP

<http://www.nhk.or.jp/miraijin/bangumi/0504/index3.html>

## 地域グループ「東紀州・尾鷲ひのきの会」 が新聞で紹介されました。

三重県海山町、尾鷲市の林業家、製材・木工業者ら10団体による「東紀州・尾鷲ひのきの会」の活動が、2月6日の中日新聞で紹介されました。

会では、その木がどのような山で育ったのかを、消費者に知らせるため『木の履歴書』をつけ、林業家や製材・加工者の名前、木の産出場所、樹種・樹齢、間伐か皆伐か、皆伐ならばその後植林されるかどうかなど、様々な項目を記して製品に貼るシステムを作っています。

記事がHPでご覧いただけます。（PDF）

[http://www.green-arch.or.jp/pdf/kishuu\\_owase\\_hinoki.pdf](http://www.green-arch.or.jp/pdf/kishuu_owase_hinoki.pdf)

## 読み切りトピックス『薪炭をつかうキャンペーン』

### 薪炭をつかうキャンペーン

環境省民間活動支援室の主催する「NGO/NPO・企業環境政策提言推進委員会」では、平成13年度から、NGO/NPO・企業から環境に関する政策提言を募集し、優秀提言へは環境省が提案団体などとともにその実現に向けてのフィージビリティ調査を行い、政策化を図ることにしています。

平成16年度は、薪く炭く（しんくたんく）KYOTOとNPO法人森づくりフォーラムの共同提言による日本の森林を育てる薪炭利用キャンペーン（他1提言）が優秀提言に選ばれました。その提言内容を紹介します。

#### 薪炭を取り巻く現状

つい150年前までは、日本は薪炭王国でした。1950年代には2000万㎡、60年代になっても、1000万㎡の薪炭が生産されていましたが、現在は10万㎡強しか生産されていません。それだけの薪炭しか生産されていないのに対して、私たちの生活は多様化し、アウトドアなどのレジャーの拡大や、炭を使った料理店などが増えています。しかしながら、その7割は、東南アジアを中心とした輸入に頼っています。そうした動きに対し、平成16年9月から、中国政府は中国内の森林保全等を目的として、木炭輸出を全面的に禁止しました。また、発展途上国の人口増加による薪炭利用は、森林の減少に拍車をかけています。

その一方、日本の森林の現状は良く知られたとおりで、消費者の環境に対する関心は強いものの、その消費活動とは一致していません。

そんな現状のなか、薪く炭く（しんくたんく）KYOTOとNPO法人森づくりフォーラムが、昨年度非常に興味深い政策提言を行いました。（以下、政策提言提出書類を参考に作成しました。）

#### 抱える課題の整理

前述したような状況に陥っている背景として、以下の3つの課題が挙げられます。

**消費者の問題：**国民の多くは環境問題として森林問題に関心があるにも関わらず、生産地の情報が消費者に届いていない。それによって、問題意識はあるとしても、結果的には東南アジア諸国の森林荒廃を促進する消費行動を選択してしまっている。

**生産者の問題：**木材の用材利用分野においてはFSCをはじめとした認証制度が徐々に導入されているが薪炭製品へのラベリングや認証は皆無に等しい。

**流通システムの問題：**最近では里山の保全・活用が叫ばれており、薪炭活用にも活路が見出されつつあるが、安価な輸入木炭と流通システムの未整備が、大きな壁となっている。

これらの問題解決のため、薪く炭くKYOTOとNPO法人森づくりフォーラムでは、薪炭をつかうキャンペーンと銘打って、持続可能な薪炭利用情報の受発信や、市民参加型のプログラム開発を通じた、普及啓発活動を行っていく予定です。

またこれらの活動のキャンペーン等への調整協力団体として、緑の列島ネットワークの名前も提言書に、入っていますので、今後どのような動きになるのかもレポートしたいと思います。

## 『巨樹画展』のお知らせ

ニューズレターvol.8でご紹介した、『巨樹』画家の  
小木曾さんの絵画展が行われます。小木曾さんの描  
く、やさしくそして力強い巨樹をこの機会に是非ご  
覧ください。

日程：7月18日（月・祭日）～23日（土）  
場所：神保町すずらん通り「檜画廊」（東京神田）  
内容：「巨樹画展」～北海道から屋久島までの全  
国の巨樹の作品。カツラ、ムク、クス、  
スギ、ミズナラ、など。

## 会員発のニュースを募集しています

見学会や勉強会、イベントなどこれからの活動予  
定をホームページで全国に発信しませんか。またそ  
うした活動について、このニューズレターで詳しく  
報告していただくことが出来ます。

木守人、生活者、建築者それぞれの立場から多様  
なニュースが集まるように期待しています。ニュー  
スをお持ちの方は、お気軽に事務局にお知らせくだ  
さい。メール、郵便、ファックスなどどのような方  
法でも結構です。

情報をお待ちしています。

## 地域グループWEBからの登録のお願い

現在は3名の会員でグループが作れます。グループ  
のメリットは独自のウェブページにてグループの紹  
介が出来ることです。現在すでに、地域グループを  
組まれている方で、まだWEBからの登録をされてい  
ない方は、是非この機会に登録して情報発信にお役立  
ててください。

([http://www.greenarch.or.jp/group\\_sheet\\_enter.html](http://www.greenarch.or.jp/group_sheet_enter.html))

## 会員専用の掲示板を利用してください

緑の列島ネットワークのホームページに、会員専用  
の掲示板を作りました。しかしながら、開設後6ヶ月  
になりますが、あまり利用されていません。会員の  
皆様の情報交換や、事務局に対するご意見など、活  
発な意見交換の場として、是非ご活用ください。

(<http://www.green-arch.or.jp/treebbs2/0/index.html>)

アクセスするには、ユーザー名とパスワードが必要  
になります。

ユーザー名:midori  
パスワード:retou

## メールニュース配信についてのお願い

昨年11月から、メールニュースの配信が始まり  
ました。4月29日にはメール版ニューズレターNo.  
4を配信しました。

入会時にメールアドレスを登録されていない方  
や、登録後にメールアドレスの変更をされた方  
は、事務局までメールアドレスをお知らせくださ  
い。

配信の際に、宛て先不明で戻ってしてしまうメ  
ールも、まだ多数あります。入会時にメールアド  
レスを登録したにも関わらず、メールニュースが届  
いていない方は、氏名と会員番号を明記して事務  
局までメールで、お知らせください。

## ニューズレター編集ボランティアの募集

緑の列島ネットワークのニューズレターを作成  
に関りませんか？言葉やイラストで"伝える"事  
を通して、運動に関りたいと考える、やる気のある  
学生さんの募集を行います。詳細については、事  
務局までお問い合わせください。

（編集主幹 江嶋）

## 【編集後記】

愛知県で開催されている、愛・地球博に行っ  
てきました。会場までの交通から見える里山の美し  
さは、日本が世界に誇る事の出来る宝だと感じ  
ました。人気のパビリオンは長蛇の列。空いてい  
る森林体感ゾーンは、オススメのスポットとなっ  
ているそうです。また、NGOやNPOの企画する、地  
球市民村も、今後の民間の可能性を感じさせてく  
れます。森林をテーマとして活動している団体も  
多くありますので、お出かけの際には立ち寄っ  
てみると、面白いと思います。

平成17年6月1日発行

特定非営利活動法人 緑の列島ネットワーク事務局  
理事長：大江忍

〒450-0003

名古屋市南村区名駅南1-3-15 サントピアビル3F

tel:052-566-0064 fax:052-566-0074

E-mail:jimukyoku@green-arch.or.jp

WEB:<http://www.green-arch.or.jp>

編集主幹:江嶋景子